

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
弥生文化博物館入館者数	人	19,000	14,794	▲4,206




未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	臨時休館の延長	新型コロナウイルスの第4波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置に伴う臨時休館が、当初の4/25～5/31から6/20まで延長されたことにより、入館者数が減少した。 （下記想定値は、延長された休館期間におけるH29～R1年度の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						→	
	項目名	入館者数	R3当初想定値	1,207人	実績値	0人	差		
②	各種イベントの休止・縮小に伴う入館者数の減少	新型コロナウイルスの第5・6波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置・まん延防止等重点措置によって人流抑制を余儀なくされ、特に例年開催していたワークショップイベントを休止した8・11・月・月、ならびに企画展を上旬に閉会した9月の入館者数が大幅な減少となった。 （下記想定値は、H29～R1年度における上記各月の実績平均、ならびにR2年度実績に基づいて算出）						→	R4年度は施設改修工事のために上半期のみの開館となり、考古学関連の展示は南関東地域の弥生文化を取り扱う夏季特別展1本となるが、報道機関やHP・SNSを通じて開催を広く周知するとともに、R3年度から本格的に始めた展示解説動画の制作・配信を引き続き実施し、展示会への集客を図る。 加えて、館長と来館者が自由に語り合う場として「弥生文化サロン」を開設し、来館者の新たな掘り起こしとともにリピーターの確保に努める。
	項目名	入館者数	R3当初想定値	10,202人	実績値	7,263人	差		
③								→	
	項目名		R3当初想定値		実績値		差		

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
日本民家集落博物館入館者数	人	21,900	17,634	▲4,266

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	臨時休館の延長	新型コロナウイルスの第4波の感染拡大に伴って発出された緊急事態措置に伴う臨時休館が、当初の4/25～5/31から6/20まで延長されたことにより、入館者数が減少した。 （下記想定値は、延長された休館期間におけるH29～R1年度の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						
	項目名	入館者数	R3当初想定値	1,235人	実績値	0人	差	
②	団体利用の減少やイベント縮小による入館者数の減少	例年多くの入館者を得ている4月が新型コロナウイルスの第4波感染拡大への警戒から大幅減となったこと（臨時休館前・▲1,223人）、臨時休館から再開後も外出自粛と人流抑制が要請される中、学校団体による校外学習（▲542人）を始め、ジュニア自然大学（▲615人）やライフスポーツ財団助成事業「子ども囲碁クラブ」（▲399人）といった団体利用が振るわず、加えて、毎年10月に開催している恒例のワークショップイベントについても、大々的なPRを見合わせ、規模を縮小しての開催となったため、参加者が減少（▲352人）した。 （下記想定値は、H29～R1年度における各項目の実績平均、ならびにR2年度の実績に基づいて算出）						
	項目名	入館者数	R3当初想定値	8,472人	実績値	5,341人	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意しつつ、展示民家を利用した企画展・市民展示や特別公開、季節行事やコンサート、参加体験型の事業等を積極的に実施するとともに、これらの開催イベントについて、季節ごとに作成するリーフレットやHPで広報を行うほか、季節の花々や移り変わる園内の様子をFacebookで、国・大阪府の指定文化財である展示民家の特徴・価値を制作動画でそれぞれ発信し、日本民家集落博物館の存在とその魅力を府民に広くPRする。

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
当期経常増減額	千円	▲130,487	▲174,343	▲43,856

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	埋蔵文化財調査事業の事業収益の減少	当初の想定より市町村事業については受託事業件数の上積みが見られたものの、結果的に年度前半の受託事業量が少なく、受託事業収入が伸び悩んだため。						<p>中部調査事務所に関わる減価償却費等の増額が継続し、会計上の収支相償は引き続き困難な状況であるが、令和4年度の埋蔵文化財調査事業は、現在の調査体制において対応できる上限に近い事業量が予定されており、これらを確実に受託に繋げるとともに、調査の実施に当たっては、支援業者の測量技術等を援用しながら効率よく進め、同時に若手職員に対する調査技術の継承を図っていく。</p>
	項目名	当期経常増減額	R3当初想定値	▲130,487	実績値	▲149,678	差	
②	展示民家大規模改修に伴う所有者負担額の資産取崩しと事業収入不足による借入金の発生	日本民家集落博物館事業において、国指定重要文化財である展示民家の大規模改修に伴う所有者負担額の一部について特定資産からの取崩し（▲17,132千円）、加えてコロナ禍の影響等による入館料等の事業収入不足のために他会計からの借入金（▲8,981千円）が生じたため。						<p>マスメディアやHP・SNS等を通じて、博物館の存在と魅力を広くPRして認知度を高め、来館者と施設利用者の増加を図ることにより、会計内の収支相償を目指す。</p>
	項目名	当期経常増減額	R3当初想定値	0	実績値	▲25,409	差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
-----	-------------------

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
賛助金・寄附金	円	5,900,000	5,647,430	▲252,570

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	クラウドファンディングの目標額未達成	国指定重要文化財「信濃秋山の民家」の保存修理事業に伴って実施したクラウドファンディングにおいて、同様の文化財保存修理での先行実施例の目標設定最高額を参考に目標額を 5,000,000 円に設定したが、地域の代表的な文化財である先行例に比して文化財自体の知名度が低く、序盤から中盤においてプロジェクトへの認知が不十分で伸び悩んだことから、最終的に目標額に到達しなかったため。						日本民家集落博物館の認知度を高め、当法人の置かれている状況を理解してもらうため、法人ならびに日本民家集落博物館のHPを見やすいものに改めるとともに、SNSを開設してこれを活用することで、展示民家の保存修理実施（当面は実施計画なし）の意義について理解を深める。
	項目名	寄付金	R3当初想定値	5,000,000	実績値	4,535,000	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	